

モクズガニ (イワガニ科)

学名 : *Eriocheir japonica*

別名 : ズガニ, ツガニ, カワガニなど

大きさ : 甲幅 10 cm

特徴 : 川に産するカニの中では大型種である。頭胸甲はやや後方に広がった六角形をしており、側縁部にはノコギリの歯のようなどげが3対ある。体色は白い腹部と胸部腹甲を除き、全体的に濃い緑がかった褐色をしている。ハサミ脚に軟毛が密生している。

海域から渓流域まで様々な環境に生息している。汽水域ないし海域でふ化し、成長した稚ガニは河川を遡上、脱皮を繰り返して成長、成ガニとなる。成ガニは交尾・産卵のために川を降り、汽水域や海に移動する。

国内の分布 : 日本全国

県内の分布 : 霞ヶ浦水系, 利根川水系, 那珂川水系など



県内での生態 : 那珂川の漁業者によれば、親ガニは春と秋に産卵のために川をくだっていくという。主たる漁期は4月で、袋網の開口部を上流向きにして仕掛け、降下する親ガニを狙う。カニは増水時に“カニ道”と呼ばれる通り道を降下するため、カニ道を見極め、流されないよう浅瀬に網を設置することがポイントになるという。

備考 : 塩ゆでやみそ漬けなどにして食すと美味。

主な文献 :

平凡社 (1999) 食材魚貝大百科第1巻. 183 pp.